コメ先物市場の話

～　試験事業のご提案　～

（株）東京穀物商品取引所・関西商品取引所

～　コメ先物市場の使い方　～

４月（作付前）

○　今年も作付けの時期が来たな。

○　でも、出来秋、コメの値段が分からないから、きちっとした経営見通しが立たないな。

○　もし、事前に出来秋のコメの予定価格が分かれば、作付けを他の作物に変更したり、逆に生産量を増やしたり、きちっとした生産計画が立てられるのに。

コメ農家Aさん

4月（作付前）

本日は、10月に引渡約束のコメが1万5千円／60kgくらいで取引されています。

取引所では、毎日、多くの取引が行われており、その取引価格は瞬時に公表されています。

○　1万5千円／60kgで売れれば、生産可能なほ場4haの全てでコメを作って480万円（単収8俵×40＝320俵）になるな。

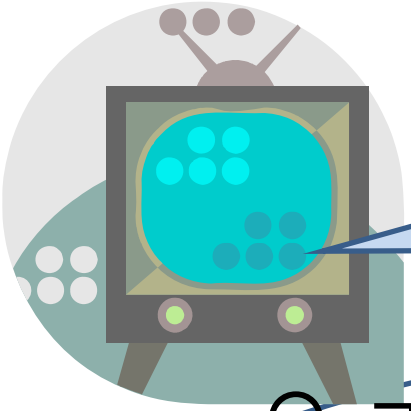
○　それなら、生産費を賄えるし、家計費としても十分だ。

○　秋に、コメが上がるか下がるか分からないから、全量を取引所で1万5千円／60kgで320俵売る契約をしておこう。

コメ農家Aさん

～　収穫期が到来 ＜豊作の場合＞　～

10月（収穫期）



○　今年は天候が良くコメは豊作です。
○　コメの価格は下落し、1万2千円／60kg程度で取引されています。

○　コメ価格は豊作で随分下がったな。

○　でも、４月に商品取引所で1万5千円／60kgで

320俵売る約束をしていたから、その値段でちゃんと売れたぞ。（480万円の収入）

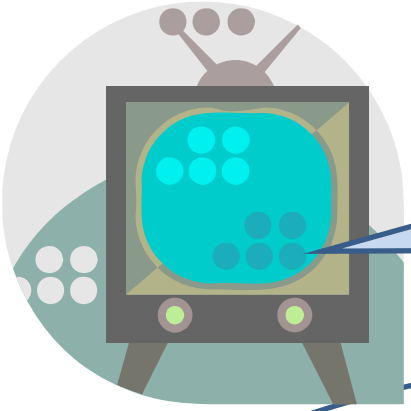
○　これで、家計費も賄えるし、来年もコメが生産できるぞ。

コメ農家Aさん

豊作でコメ価格が下落しましたが**当初予定した収入（480万円）を確保**できました。

～　もし、コメ先物市場を利用していなかったら　～

10月（収穫期）



○　今年は天候が良くコメは豊作です。
○　コメの価格は下落し、1万2千円／60kg程度で取引されています。

○　コメ価格は豊作で随分下がったな。（3千円の値下がり）

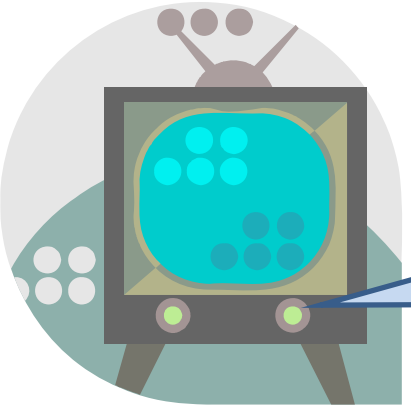
○　実際の販売価格も1万2千円／60kgだったから、予定より大分収入が減ってしまったな。（384万円の収入）

○　販売量は予定より少し増えたけど、来年の生産計画を立てるのが難しいな。

コメ農家Aさん

豊作による値下がりで**収入が384万円**に減少しました。
→　先物市場を使わない場合より**96万円減少**。

～　収穫期が到来 ＜不作の場合＞　～



10月（収穫期）

○　今年は天候が悪くコメは不作です。
○　コメの価格は下落し、1万8千円／60kg程度で取引されています。

○　コメ価格は不作で随分上がったな。（3千円の値上がり）

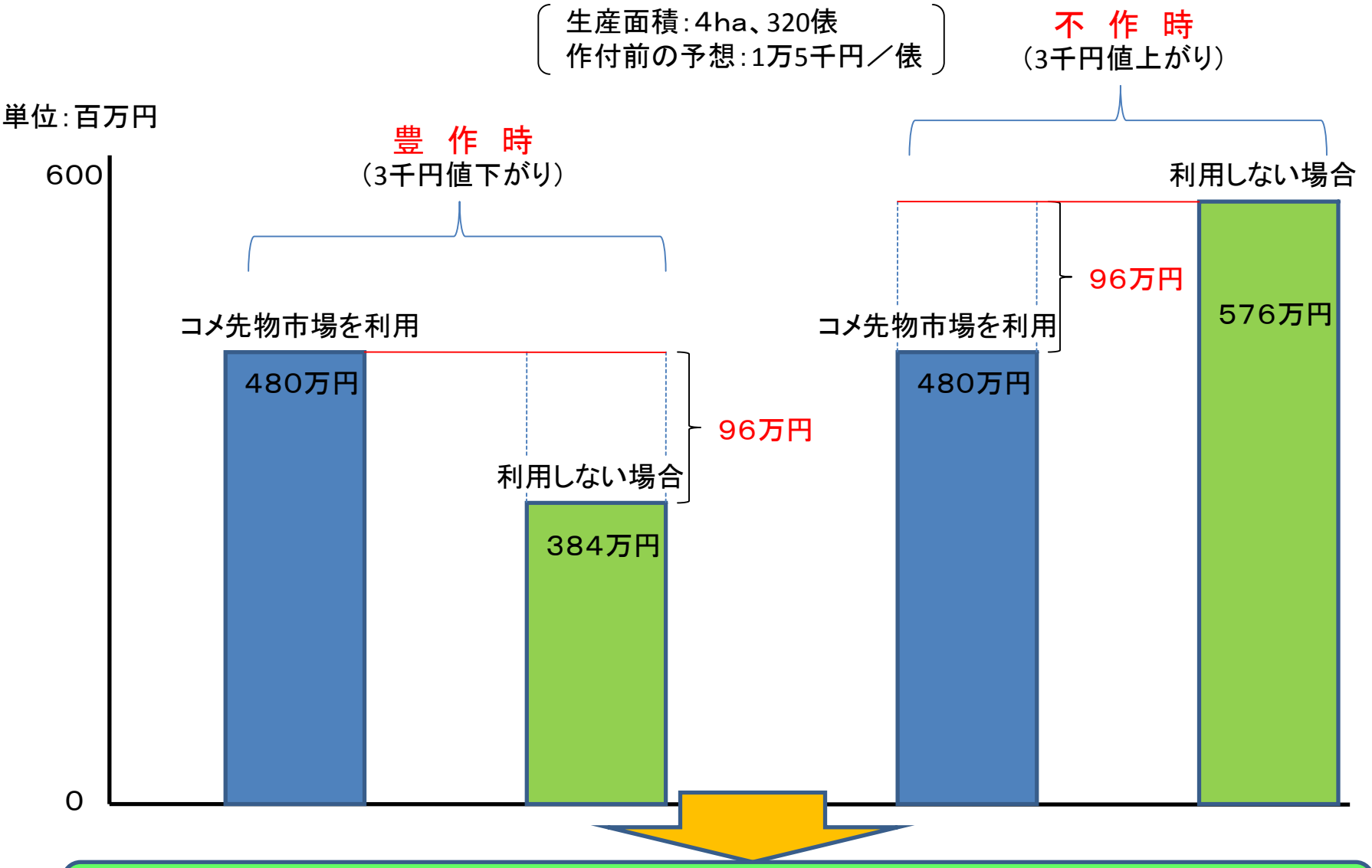
○　４月に取引所で1万5千円／60kgで320俵売る契約をしていたから、その値段で売 ろう。（480万円の収入）

○　もし、1万8千円／60kgで売れれば、96万円収入（総 額で576万円）が増えたはずだけど、豊作で値下がりする時もあるし、経営に必要な収入は確保できたのでよしとしよう。

コメ農家Aさん

値上がりによる収入は減りましたが、
当初予定した収入（480万円）を確保できました。

それぞれの場合のコメ農家Aさんの収入の範囲を整理すると以下の通りです。



不作時には収入は下がりますが、豊作時には収入の減少を抑えられます。
→　収入を平準化　→　経営の安定化

コメ先物市場の3つの疑問にお答えします。

Q1　先物市場ができると、投機によって価格が乱高下することはないですか。

○　価格が需要と供給で決まることは現物市場も先物市場も同じで、両方の価格は連動しています。

○　先物価格は将来の予想価格なので、何らかの相場変動要因が発生しても、それを吸収する時間があるので、価格変動は現物価格より緩やかになるといわれています。

○　先物市場には現物を扱う事業者とともに、一般の投資家が参加しています。事業者の皆さんが先物市場で保険をかけようとしても、そのリスクを引き受ける投資家がいないと取引が成立しません。

○　しかし、もし機関投資家が大量の資金を投入して相場を動かすようなことになれば、市場の公正性が保たれません。このため、国と取引所は常時市場の動きを監視し、機関投資家が資金力にまかせて相場に影響を与えることができないような措置を講じています。

【通常時】

①　国及び取引所による市場監視（取引所から国へ、毎日、大口取引の報告など）

②　取引所による値幅制限（ストップ安、ストップ高）、建玉制限（参加者１人当たりの注文量の制限）の設定

【緊急時】

③　国が取引所に対し、値幅制限、証拠金引き上げ、受託制限を命令

Q2　先物市場ができると需給調整の取組に影響を与えるのではないか心配です。

○　先物市場は、卸売市場と同じように、誰でも参加でき、中立・公正なルールに従って運営される市場ですので、全ての市場参加者に中立です。

○　取引所は、現物を受け渡すことによって決済する機能をもっています。これは、事業者の皆さんが安心して先物市場に保険（ヘッジ）をかける上で不可欠な機能です。この機能を活用して先物市場に売りの保険（ヘッジ）をかけておけば、需給調整の取組に参加しなくてもよいのではないかと思う人がいるかもしれません。しかし、先物価格は現物価格に連動し、どちらも同じように需給によって決まります。先物市場はコメ関係者だけでなく、一般投資家など多様な人が参加しており、価格は市場の様々なシグナルに敏感に反応します。先物価格は実状を映し出す「鏡」のようなものですので、需給調整の取組が十分でなければ下がってしまいます。

○　むしろ、先物市場は将来の予想価格を決めているので、生産者が先物価格を参考にして生産・販売計画を立てたり、播種（収穫）前契約を一層進めることができれば、先物市場の活用によって計画的・安定的な生産・販売体制の構築を進めることができ、需給の安定にも役立つのではないかと考えます。

Q3　コメのように価格が低下傾向にある商品は先物での取引には向かないのではないですか。

○　先物市場で取引されている商品には、大豆、とうもろこし、小豆などの農産物から、金、白金、ゴム、石油などの工業品まで様々なものがあり、価格が趨勢的に低下又は上昇しているかにかかわらず、何らかの要因で価格や需給の変動があればどのような商品でも取引の対象になります。

○　価格や需給の変動の要因は、天候、作柄、夏冬などの需要の季節性、輸入品における為替や運賃の変動、輸出規制、輸出国における政情不安などの様々ものがあり、多様な市場参加者がこれらの要因をいろいろ考えながら、参加することによって、価格が形成されます。農産物は、工業品に比べてまさに天候、作柄等によって需給と価格が変動するので、先物市場での取引にあった商品といえます。

そこで、生産者の皆さんなどコメ当業者の経営安定の道具として、コメ先物市場の試験事業を提案します。

試験事業の３つの特徴

１　２年間の期間限定の事業です。

２　先物市場がコメ当業者の皆様の経営に役立つか、生産・流通に影響等があるかを検証するための事業です。

３　検証の結果、何か問題があれば本上場を取り止めます。

先物市場の５つのメリット

１　透明かつ公正な価格情報をタイムリーに提供できます。

２　作況等による価格変動のリスクの保険手段を提供できます。

３　先物市場の保険や現物受渡し機能を活用すれば、在庫を縮減できます。

４　先物価格や保険機能を活用すれば、播種（収穫）前契約を進め易くなり、計画的安定的な生産・販売体制を確立できます。

５　先物市場で将来の価格が決まれば、在庫価値の評価が可能となり、在庫を担保とした資金調達が可能となります。

先物市場への３つの不安

１　投機によって価格が乱高下するのではないか心配

２　需給調整の取組に影響を与えるのではないか心配

３　コメのように価格が低下傾向にある商品は先物取引に向かないのではないか。

こうした先物市場のメリットや不安を検証するために、2年間限定の試験事業を提案します。